

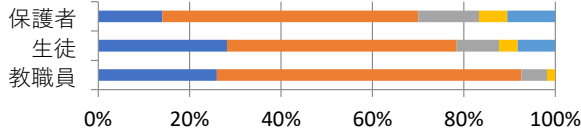
令和5年度 学 校 評 価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

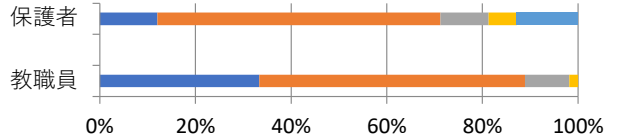
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）



考察

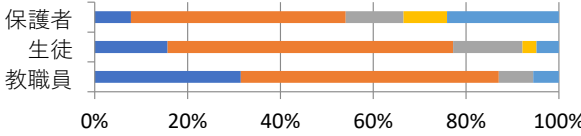
「一人一人の児童生徒の尊重」について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が教職員は92.6%であるのに対して、保護者や生徒は70%台である。特に保護者70%と教職員の認識と20%も差があった。学校だよりや学級通信等を通して生徒の活躍や様子などを発信しているものの、より伝わる方法を考えたい。また、日々の指導において教師側の意識と生徒や保護者の意識に差があるのではないかと推察される。学年や学校全体が組織として指導・支援にあたり、互いに共通認識を確認したり、その後のフォローをしたりするような配慮が必要であると考える。

「2 道徳・心の教育の充実」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が保護者71.2%、教職員88.9%であった。いじめ根絶月間・心かがやけ月間における取組を学校だよりによる家庭への発信、親子道徳の実施、ローテーション道徳により学級担任だけではなく学年に関わる職員全員で心の教育を育む取組によるものと推察する。一方で保護者の「わからない」が10.5%については、ローテーション道徳により毎週の道徳の時間の様子などを学級担任が十分に把握しにくいことから、学級通信などで随時家庭へ発信できていないことに課題があると推察する。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

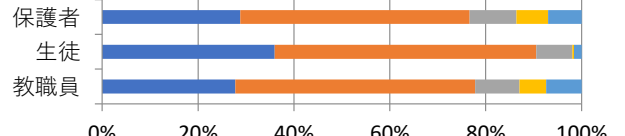
3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。



考察

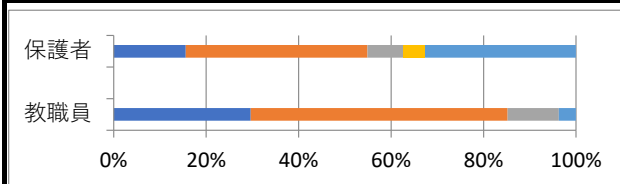
「3 授業力向上」については、87%の教職員が肯定的な考えであるのに対し、保護者の肯定的意見は54%にとどまる。生徒の肯定的な回答が77%であることを踏まえると、ICTを活用したり、生徒の意欲を喚起するような教師側の学習活動の工夫は概ねできていると思われるが、保護者が目にするテストなどの客観的学習成果の数値が伸びないため、保護者としては授業力の向上が不足している、と捉えられているのではないかと推測される。授業展開を工夫する努力を継続しながらも、基礎的・基本的な学力を身に付けさせるための取組も具体的に進める必要があると考える。

「4 タブレット端末活用」については、教師と保護者がそれぞれ77%、76%とほぼ同じ割合で肯定的な回答である。また、生徒は90%が肯定的な回答をしている。いずれも高い割合でICT機器の活用ができていると実感できていると捉えられるが、生徒の回答については、学習活動に関連した活用なのか、学力向上に役立つ活用ができているかということについても注視する必要があると思われる。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

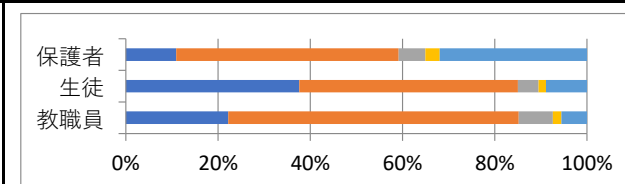
5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



考察

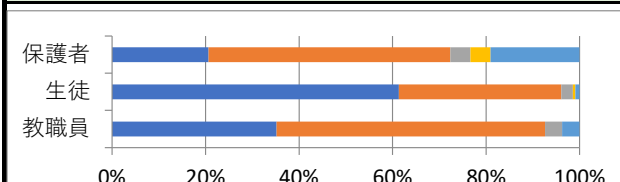
「5 学校の支援体制」では、R5の評価「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は教職員85%、保護者55%である。半数を超えており、おおむね高い評価が得られている。教職員の評価と比べて保護者の評価が低いのが課題である。新入生保護者説明会や懇談会等での啓発を積極的に実施していきたい。校内においては各学期ごとに特別支援教育推進委員会を開催するとともに、必要に応じてケース会議を実施し、教育支援計画を立ててきめ細やかな支援を実施している。新入生については必要に応じて面談を実施し、スムーズな移行支援を目指している。

「6 共生社会を担う人材の育成」ではR5の評価「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は教職員85%、生徒85%、保護者59%と高い評価である。本校では特別な支援を要する生徒たちが合理的配慮を受けながら授業や行事に参加している。互いを認め合い、尊敬しあう場面も見られる。共に学ぶことが当たり前になっている現状が評価につながっていると考えられる。今後、行事等の中で子どもたちの姿を見ていただき、共に成長している様子を見ていただきたい。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

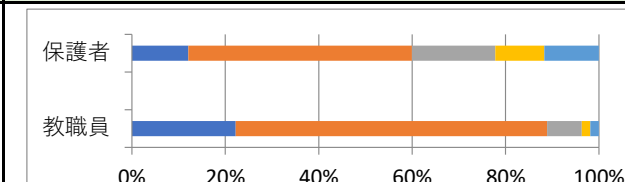
7 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



8 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



考察

「7 安全と事故防止」では、R5の評価「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は保護者72%、生徒96%、教職員92%である。評価の要因としてはICTを多様化するようになり、啓発のプリント類もロイロノートで発信していく中で、生徒には啓発ができているが、保護者に伝わりにくくなっていることが、保護者の評価の推移の要因の1つとして考えられる。そのため、保護者の評価として「わからない」の評価が19%の割合を占めているのではないかと考えられる。啓発の方法として、ICTを活用しながらも、保護者への啓発等に関しては、プリント配布やホームページへ掲載するなど、啓発方法を工夫をしていかなければならない。教職員に関しては、ICTを利用することで広く情報を発信することができているが、保護者など多くの人にもっと伝わりやすい情報発信を心がけていきたい。

「8 家庭や地域との連携協力」では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は教職員89%、保護者60%であり、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の割合が教職員9%、保護者29%であった。コロナ禍が明けて、今年度は昨年度よりも授業参観や地域の行事なども行われ、学校と家庭・地域の連携できる一つのきっかけとなったが数値としては満足できるものではない。今後は北部SDGs・授業参観・学校行事などの取組や活動の方法をその時の状況にあった形で実施していき、地域や家庭とより密接に連携していくことを心がけていきたい。

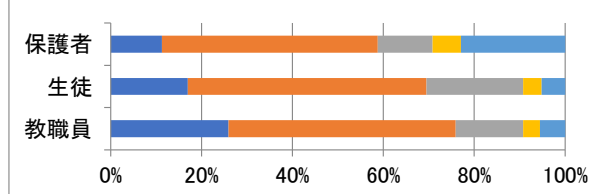
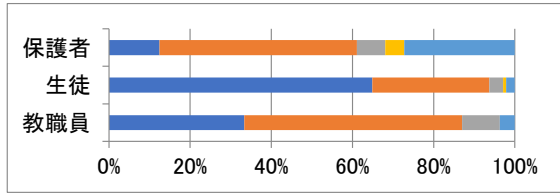
⑤本校の教育

9 学校教育目標の理解

10 身につけさせたい7つの力について

学校教育目標「人とつながる 社会とつながる 未来とつながるESD」を理解し、教育活動を行っています

「7つの力」を意識して、教育活動の計画づくりや授業内容の改善に取り組んでいますか。



考察

「9 学校教育目標の理解」については、「そう思う+どちらかといえば、そう思う」の割合は教職員87%、生徒94%、保護者61%である。様々な機会を捉えて学校教育目標についての意識付けを進めている結果、教職員・生徒においては高い割合を示している。しかし、保護者においては「わからない」が27%となっていることを受け止め、様々な機会を捉えて保護者に十分に周知することが必要と考えられる。

「10 身につけさせたい7つの力」については、「そう思う+どちらかといえば、そう思う」の割合は職員76%、生徒70%、保護者59%「どちらかといえば、そう思う+そう思う」の割合は職員19%、生徒25%、保護者18%という結果であった。生徒の4分の1程度が「7つの力」について意識を高く持っておらず、改めて職員が「身につけさせたい7つの力」を丁寧に意識させて学習活動に取り組ませることが必要であると考えられる。また、「わからない」の割合が保護者23%と高く、あらゆる機会を通じて保護者に「7つの力」について周知が必要と考えられる。

来年度の具体的な取組について

- ・来年度の道徳でも「親子道徳の日」や学級・学年・学校便りを通して、保護者に情報を発信し、保護者と協力しながら生徒の心を耕していきたい。また、地域の行事などに積極的に参加・協力することを通して地域と繋がり、共に協力しながら生徒を育てていきたい。
- ・不登校対策については、幼小中の連携強化をしつつ、関係機関との連携を深め、生徒とその家庭への支援を行ってきたい。
- ・いじめ防止については、道徳教育や「いじめ根絶月間」の実施、人権教育などを通して生徒の人権意識を高めていく。
- ・来年度も引き続き、生徒が意欲的に参加していく授業づくりを行ってきたい。そのために、それぞれの授業の目標（めあて）を明確にし、単元全体を通した計画的な授業づくりを行っていく。また、ICT機器を効果的に活用した授業を行っていく。そのための校内研修の機会を確保したり、教職員間での情報交換を密にしていきたい。
- ・支援を必要とする生徒に関して、教育相談や懇談会等の機会を捉えて、保護者への啓発を行っていくとともに、特別支援教育推進委員会の開催や、必要に応じたケース会議の実施などを通して、個に応じたきめ細やかな支援を行っていく。
- ・特別な支援を要する生徒が合理的配慮に基づき授業や行事に参加することを通して、共に育つ場面を作っていく。
- ・新入生に関しては、新入生保護者説明会や入学前の教育相談、連絡シートの活用などで、中学校への接続がスムーズに行われるようにする。また、校内研修を設け、生徒理解を推し進めていく。
- ・小中学校や安全協会とが連携した取り組みは来年度も継続していきたい。本年度は登下校中の事故が多く発生したが、その減少・防止に向けて各教科での学習を通し、安全に対する意識を高めると共に、交通安全や事故防止に対する行動の変容を行っていく。更に、学校ホームページへの掲載やプリント配布なども行いながら、家庭や地域への啓発を行ってきたい。
- ・本校の教育方針や教育目標について、諸便りや懇談会、ホームページへの掲載、PTAや関係諸団体の会議など様々な方法や機会を通じて、わかりやすい形での情報発信を行い、教育方針や教育目標に対する理解と協力を得たい。
- ・本校がこれまで続けてきた様々な研究を基にして、「身につけさせたい7つの力」を生徒に意識させて、丁寧に教育活動を展開していきたい。

学校関係者評価

- ①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応
 - ・とてもよくできている。
- ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進
 - ・生徒が自主的に楽しんで授業に参加している様子が伺えて大変良い。リラックスして授業に参加している様子も伺えるので、是非続けてほしい。
 - ・タブレットを活用した総合的な学習の時間「北部SDGs」の学習は、生徒が主体的に楽しく学んでいて、とても先進的で、将来に生きてくるだろうと感ぜられる。自分たちで考えて形にすることや行動することはとても素晴らしい。また、自己評価の結果から、保護者は学校でどのような取組を行っているかわからないという返答が少なく、このような学習活動を、広く保護者にも見てもらったり、保護者が参加したりすることもあると良いと思う。
- ③教員が子どもと向き合うための体制の整備
 - ・保護者は、学校が特別な支援を必要とする生徒に対してどのような支援を行っているかがあまりわかっていないので、何らかの形で知ることができれば良いと思う。
- ④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進
 - ・とてもよくできている。
- ⑤本校の教育
 - ・学校教育目標について生徒が良く理解しているのは素晴らしい。